

事業報告書

令和4年度版

令4年4月1日～令5年3月末日



～令和4年度の主な事業～

社会福祉法人 未来こどもランド

社会福祉事業

第二種社会福祉事業

保育所 練馬区立石神井町つつじ保育園

保育所 練馬区立光が丘第十保育園

保育所 練馬区立東大泉保育園(準備期間)

小規模保育事業 すまいるベリー保育園

放課後児童健全育成事業 未来こどもランド学童保育

地域子育て支援拠点事業 子育てのひろば すまいる石神井

地域子育て支援拠点事業 子育てのひろば すまいる高野台

障害児通所支援事業 放課後等デイサービス すまいる・ステップ

障害児通所支援事業 児童発達支援 すまいる・キッズ

障害児通所支援事業 放課後等デイサービス すまいる・ツリー

障害児相談支援・特定相談支援事業 未来こどもランド すまいる相談支援室

障害福祉サービス事業 就労継続支援B型 すまいる・フォレスト

地域社会貢献事業 「みんなのカフェ」 すまいる・ヴィヴィファイ

◆法人◆

1) 概略

- 法人名 社会福祉法人未来こどもランド
- 所在地 東京都練馬区谷原5-22-2 MKLビル
- 代表理事 栗原三津子
- 設立認可年月日 平成26年4月8日
- 法人登記年月日 平成26年4月8日

2) 理事、監事、評議員

今年度の理事（6名）、評議員（7名）、監事（2名）は次の通り

理事長 栗原三津子

理 事 岩瀬秀明 平山晴一 鈴木真 東江福江 香取寛

評議員 平田美穂 村上環 遠藤由美子 長島庫子 石井孝弘 上田ゆき子 長濱秀幸

監 事 田渕順三 船越敏万

3) 理事会の開催状況と主な決議事項

開催日時

令和4年6月7日

※コロナ感染対策実施下におけるズーム会議での開催

- ・令和三年度事業報告について
- ・令和三年度計算書類および財産目録について
- ・令和四年度における積立金について
- ・経理規定の改定について
- ・定時評議員会の招集について

令和4年6月21日

※コロナ感染対策実施下におけるズーム会議での開催

- ・令和四年度事業報告について
- ・令和四年度補正予算について
- ・令和四年度計算書類および財産目録について
- ・評議員選任・解任委員会の招集

令和4年11月28日

※コロナ感染対策実施下におけるズーム会議での開催

- ・定款変更について
- ・定款催促の変更について
- ・規則既定の変更について
- ・役員報酬規程の変更について
- ・就業規則の改定について

令和 4 年度 石神井町つつい保育園

事業報告書

1 受託事業者名 社会福祉法人未来こどもランド 2 受託開始年月日 平成 18 年 4 月

3 全体概況

コロナウィルス感染症により 4 月に 1 日休園になったがそれ以降はなく、ガイドラインの改訂に伴い保育の中でも少しずつ変更することがあった。

- ・感染対策のため令和 3 年度 2 月に園庭からの登園にしたが、令和 4 年度 6 月には正門からの登園に戻した。
- ・10 月のあそぼう会では人数制限(1 世帯 2 名)はしたが親子競技も行った。
- ・今年度から幼児大きくなったね会の開催時期を 12 月にし、2 年振りに保護者を会場に入れて行った。
- ・乳児大きくなったね会は保護者会と同日で保護者参加で開催した。
- ・卒園式は、1 世帯 4 名で職員はマスクを着用せず参加した。
- ・ひなまつりのお茶会を開催。
- ・外部講師はすべて予定通りに行えた。

R4 年度は ICT 化を進めることができた。

- ・月案、週案に加え、日誌、連絡帳もコドモン配信にした。操作方法など職員全員で確認しあいながら問題点や不安点をだし進めることができた。

少しずつコロナ前の状況に戻りつつあるが、行事への参加の仕方などは見直すよい機会となったのでコロナ前に戻すのではなくよかったですところは取り入れていきたい。

4 職員構成 様式 1 のとおり

5 年間行事実施状況 様式 2 のとおり

6 保護者との連携

(1) 各たよりの発行状況

名称	発行回数
園だより	毎月
保健だより	毎月
栄養だより	毎月
クラスだより	随時
フォトだより	随時

(2) 保護者会等実施状況

	保護者会	保育参観（参加）	個人面談	その他 ()
0歳	4/22（オンライン） 2/14（対面開催）	毎週水曜日	随時	
1歳	4/21（オンライン） 2/16（対面開催）	毎週水曜日	随時	
2歳	4/20（オンライン） 2/17（対面開催）	毎週水曜日	随時	
3歳	4/19（オンライン） 3/1（対面開催）	毎週水曜日	随時	
4歳	4/18（オンライン） 3/2（対面開催）	毎週水曜日	随時	
5歳	5/13（オンライン）	毎週水曜日	随時	

7 運営委員会等開催実績

	開催日	時間	会場
第1回	7月8日	18時半～	石神井町つつじ保育園 ホール

8 障害児保育

3歳児クラスと4歳児クラスで1名ずつ統合保育を実施した。今年度も2回にわたり巡回指導を受けた。

アンジェルマン症候群の3歳児は以前から注文していた座位保持機が出来上がり、園での使用を始めた。食事の時だけでなくホールでの行事参加などにも使用している。表情が豊かになり、嬉しい、悲しいなどはっきりわかる。

巡回指導では「自分で繰り返し動こうとする経験」が大切であるという助言をいただいた。座位保持機から降りてマットの上で過ごす時間ももつようにしている。

2月に第二子が生まれた。出産入院中は本児は預かり入院。母が産休・育休中により9時～16時半の保育。

自閉症スペクトラムの4歳児は、保育室から度々抜け出すことがあるものの担任の声掛けに応じて戻る。意味のある言葉のやりとりも時々みられる。

高い所が好きで、木や固定遊具の高い所まで登るが本児なりに危険を感じるときもあり慎重さもみられる。

他児との交流も始まっており保護者以外の人との関わりも広がっていると考えられる。巡回指導では「本児には学習し理解していく力がある」とのことだったので少しづつ約束やルールを伝えるようにしている。

9 職員研修 様式3のとおり

10 特別保育 様式4のとおり

11 地域との連携

(1) 地域との交流事業実施状況（子育て支援、ふれあい交流、家庭的保育者児童への給食サービスなど）

月	事業名	事業内容	参加者数
4月	つつじっこくらぶ	地域交流（園庭開放）	2名
5月	つつじっこくらぶ	地域交流（園庭開放）	4名
6月	つつじっこくらぶ	地域交流（園庭開放）	11名
7月	つつじっこくらぶ	地域交流（園庭開放）	0名
8月			
9月	つつじっこくらぶ	地域交流（園庭開放）	4名
10月	つつじっこくらぶ	地域交流（園庭開放）	36名
11月	つつじっこくらぶ	地域交流（園庭開放）	29名
12月	つつじっこくらぶ	地域交流（園庭開放）	9名
1月	つつじっこくらぶ	地域交流（園庭開放）	1名
2月	つつじっこくらぶ	地域交流（園庭開放）	4名
3月			

12 給食（アレルギー対応や安全、衛生管理について）

アレルギーガイドラインの変更から3年目となり、保護者も考え方や手順について理解が進み、スムーズに保護者から確認印を頂けるようになった。昨年同様、調理に携わる栄養士・調理員がコロナ感染者にならないように、換気をした部屋で、少人数での休憩を交代でとった。体調管理や消毒作業を怠らずに行ってきた結果、逼迫した状況は避けることができた。食育は、5歳児クラスでの味噌づくりや、3歳児4歳児クラスではトウモロコシの皮むきを行った。また、給食の時間にできる限り栄養士が毎日各クラスを巡回した。食材や出汁に興味をもつ子どもが増えた。

13 園児の健康管理

（1）実施状況について

	実施の有無		実施の有無
健康診断（春・秋）	有	歯科保健指導 (講演会、歯磨き指導等)	有
0歳児健診（月1回以上）	有		
歯科健康診断（春・秋）	有		

（2）感染症等への対応について

職員全員、手洗いや消毒、毎日の検温を続け健康維持に努めた。

東京都集中的検査を活用した定期的な抗原検査を実施し、無症状でも陽性反応がでたり、体調に不安を感じた時にも検査できるなど職員の健康管理、職場内の感染予防に大きな成果があった。

14 個人情報（個人情報の適正な取り扱いや研修の実施などについてご記入願います）

区の個人情報セキュリティーの研修は紙面でおこなった。テスト形式で解答するものだったので一人ひとりがよく考えることができていた。カメラや児童票の持ち出しのチェック簿記入は、漏れることなく出来ていた。園のパソコンからメールを送る際、自動的にパスワードがかかるシステムを導入した。これからも事故を未然に防ぐように努めたい。

15 各規定の設定（有りの場合は○、無い場合は×）

情報公開に関する規定 (仕様書15に定めた内容として)	○
情報セキュリティーポリシーの規定 (情報システムを用いる場合に、仕様書14の9に定めた内容として)	○

令和 4年度 光が丘第十保育園 事業報告書

1 受託事業者名 未来こどもランド

2 受託開始年月日 平成 25年 4月 1日

3 全体概況

令和 4 年度は前年度にかわり、新型コロナウイルス感染症の流行の波があったため、その都度状況を確認しながら、どのように子ども達の安全と遊び、生活の保障できるか、のびのびと生活し遊べる環境をどのように作っていくかを全職員で考え保育してきた。また年度後半になりインフルエンザが流行し行事日程の変更をしてきた。

また、完全な ICT 化に向け登降園管理を始めお便り関係、ドキュメンテーション、アンケート調査、身体計測等はコドモンで配信してきた。5 年 4 月より連絡帳配信にむけ、年度末からテスト配信を進めている。ドキュメンテーションを配信するにあたり、研修を受け、「ていねいな保育」について職員同士で勉強し研修報告を行ったりしてきた。キャリアアップ研修、保健福祉健康財団主催（乳児保育、幼児保育、保護者支援、食育アレルギー対応等）に 10 名が参加、練馬区主催の研修を始め法人研修等受講し、その後、園全体で報告し学びあう時間をもうけながら、職員の資質向上と保育の質の向上に繋がるようにしてきた。

4 年度も父母会との恒例行事だった「子ども縁日」を保育園主催とし、1 歳クラスからの参加で、登園時間に差をつけ内容も密にならない工夫をしてきたがとても好評だった。運動会は感染症対策ガイドラインに沿って、幼児クラスのみ参加で、各家庭 2 名までの参加にしてきた。小学校体育館での開催のため天候に左右されることなく開催できることで保護者からも毎年好評をいただいている。年度末の地域交流として予定した人形劇は、感染者が多く延期となつたが地域の方を招いて 2 月に開催する事が出来た。

「大きくなったね会」は昨年に引き続きライブ配信を行った。子ども達は緊張することもなく普段通りの姿で演じることができ、保護者からは遠方にいる祖父母もみることができるために、このライブ配信を続けてほしいといった感想があった。しかし、対面で観たいと少数の保護者からの感想もあり検討は必要かと感じた。

行事に限らず感染症対策は徹底し行ってきた。

運営委員会について、保護者より申し出があり 4 年度も紙面開催で行った。アンケート調査はコドモンの機能を利用したが、紙面で求めるよりも携帯での記入に慣れている様子で、例年の数倍の記入があった。その中で保護者会はズームで行ってほしいといった意見もあったが、特に 0 歳入園で、初めての子を持つ保護者にとっては、今後の子育てにおいての繋がりが大切な時期、機会であることから両方の意見を参考にしながら考えていく必要がある。

5 年度から東大泉保育園を受託するにあたり、4 年度は引き継ぎ期間となり保育士の入れ替わり等があったが、運営に支障なく園児が戸惑うことがないよう、保護者への連絡を丁寧に行いながら保育してきた。

4 職員構成 様式 1 のとおり

5 年間行事実施状況 様式2のとおり

6 保護者との連携

(1) 各たよりの発行状況

名称	発行回数
園だより	毎月、 隨時 年 12 回 ()
保健だより	毎月、 隨時 年 12 回 ()
えいようだより	毎月、 隨時 年 12 回 ()
クラスだより	毎月、 隨時 年 12 回 ()
	毎月、 隨時 年 回 ()

(2) 保護者会等実施状況

	保護者会	保育参観（参加）	個人面談	その他 ()
0歳	4月 6日 2月 22日	1日1名とし 6月開始8名参加	8名	
1歳	4月 11日 3月 14日	1日1名とし 6月開始11名参加	11名	
2歳	4月 18日 3月 2日	1日1名とし 6月開始15名参加	15名	
3歳	4月 19日 3月 3日	1日1名とし 5月開始17名参加	18名	
4歳	4月 21日 3月 6日	1日1名とし 5月開始17名参加	17名	
5歳	4月 22日 1月 13日	1日1名とし 5月開始11名参加	11名	

7 運営委員会等開催実績

	開催日	時間	開催方法（対面、書面、オンライン）
第1回	10月 20日		書面開催 ICT活用、アンケート集計
第2回			
第3回			

8 障害児保育

5歳児2名は双子、1名は注意欠陥多動障害、1名は発達障害。主治医の処方により常にアトモキセチン服用。5歳児クラスは3名の保育士で保育。好きなことには意欲的に取り組み、絵画や制作に特に意欲的でじっくり取り組む姿がある。十分に取り組める環境が保障できるように設定している。こだわりが強いため集団への参加は難しいが、周りの状況に気づくよう言葉がけにも気を付けるようにしている。また、巡回指導の内容を保護者に伝えている。巡回指導内容を元に、本児が気持ちを表せるよう絵カード等も利用している。また、クリニックの中にある発達支援3か所にも通所している。

0歳で入園した1名は、発達の遅れがあるため病院受診。結果水頭症の疑いあり精神運動発達地帯と診断され事後認定となった。頭部にリザーバーが入っていることから、定期的に成育医療研究センターに通院している。クラス内では、他の子ども達と一緒に過ごすこともあるが、発達状態から危険な場面もありほとんど一対一での関わりが必要。食事椅子、遊具等は発達にあった物を用意している。保護者の希望もあり都立北療育センター（医療型児童発達支援センター）より、PT,STが訪問し本児の発達状況をみたり、支援方法を保育士に伝えてもらったりしている。特に保護者が不安を感じない様に、保育園と一緒に本児を見守りながら支援していくことを伝えている。園では発熱時ダイアップ使用、家庭では平熱時にも痙攣ありの連絡を受けている。

9 職員研修 様式3のとおり

10 特別保育 様式4のとおり

11 地域との連携

(1) 地域との交流事業実施状況（子育て支援、ふれあい交流、家庭的保育事業者への給食サービスなど）

月	事業名	事業内容	参加者数
4月			
5月	地域交流	園庭で遊びましょう、ふれあい給食 コロナ感染拡大を考慮して中止	0
6月	地域交流	リズム遊びをしましょう、ふれあい給食 コロナ感染拡大を考慮して中止	0
7月	地域交流	七夕集会、パネルシアターを見よう コロナ感染拡大を考慮して中止	0
8月			0
9月	地域交流	リズム遊びをしましょう、ふれあい給食 コロナ感染拡大を考慮して中止	0
10月			0
11月	地域交流	園庭で遊びましょう、ふれあい給食 コロナ感染拡大を考慮して中止	0
12月	地域交流	人形劇を観よう	0

		コロナ感染拡大を考慮して中止	
1月	地域交流	新年お楽しみ会に参加しよう、ふれあい給 コロナ感染拡大を考慮して中止	0
2月	地域交流	一緒に鬼退治をしましょう (12月に延期になった人形劇を観よう変更)	3名の大人 3名のお子さんの 参加あり

12 給食（アレルギー対応や安全、衛生管理について）

アレルギー対応児、0、1、2歳児各クラス1名。3歳児2名、4歳児1名、計6名。毎月アレルギー会議を行い、給食提供についての確認している。アレルギー児専用のトレー、食器、ペーパーを使用し、テーブル、アクリル板も区別している。4歳児1名は乳で、特に重症化することもあり症状がでたらすぐに対応できるように、主治医よりエピペンを処方され園で預かっている。給食室へ受け取りに行く際の確認方法、保育室からクラスへ、各テーブルへの配膳、おかわりの提供の仕方についての確認も職員全体で把握している。また区立園では使用しないが、ナッツ、蕎麦、エビ、カニ、赤魚、グレープフルーツ系等のアレルギーについても、災害時非常食提供の際に把握している。衛生面では、手洗い後のふき取り、食事中のおしぶりもペーパーを使用している。アレルギー児用には間違いが無いように別にペーパーやおしぶりを用意している。

13 園児の健康管理

（1）実施状況について

	実施の有無		実施の有無
健康診断（春・秋）	○	歯科保健指導 (講演会、歯磨き指導等)	○
0歳児健診（月1回以上）	○		
歯科健康診断（春・秋）	○		

（2）感染症等への対応について

区の感染症対策マニュアル、ガイドラインを全職員で確認し感染予防に努めている。感染症の情報収集を行うとともに、保護者への情報提供をし感染拡大を防ぐために出来ること、行ってほしいこと等を知らせている。職員は出勤の際外からのウイルスを持ち込まないように通勤着から通勤着に着替え、検温、消毒をすませ保育室に入ること、休憩は蜜を避けることを徹底している。保育室の感染対策として、安全性を考え電解水の使用、消毒にはドーババストリーゼをしている。乳児クラスは、舐めたらすぐに消毒できるように、ドーババストリーゼに浸した布を数か所に設置し、また使用した遊具はUV（紫外線）による遊具消毒ボックスを使用して殺菌している。幼児のマスク使用については基本的に着用しないが、保護者の希望がある場合は着用している。風邪気味で咳が多く出る場合は、保護者に確認して園用を着用している。

食事は各テーブルにアクリル板を使用し、職員休憩室、事務所もアクリル板で感染が広がらないようにしている。保護者は登降園の際、サーマルカメラで検温し、手指消毒の徹底もお願いしている。業者等、来園者にも同じようにお願いしている。
園児の手拭きタオル、おしごり等も使い捨てペーパーに徐々に切り替えてい。

14 個人情報（個人情報の適正な取り扱いや研修の実施などについてご記入願います）

法人の就業規則で個人情報保護法に基づく遵守が定められており、採用時に研修を実施している。保護者には個人情報の利用目的について説明し、承諾書を提出していただいている。職員は会議の中で、身近なところから個人情報の管理について事例検討しながら管理徹底についての確認を行っている。指導計画、その他 ICT 化を進めているため、写真を含め、個人に関する事が漏れることのないよう、SD カード持ち出しは園内のみにし、事務所からの持ち出しチェックも徹底し行っている。

15 各規定の設定（有りの場合は○、無い場合は×）

情報公開に関する規定 (仕様書1「入園児童等に対する保育の実施およびその他の処遇に関するこ と」の仕様細目14に定めた内容として)	○
情報セキュリティーに関する規定 (受託情報の保護および管理に関する特記事項第5条に定めた内容として)	○

令和4年度事業報告

練馬区立東大泉保育園引継ぎチーム

令和3年度練馬区東大泉保育園委託事業所公募に際し、社会福祉法人未来こどもランドの運営する公立園3園目となるよう、東大泉保育園の委託運営事業者として手を挙げた。

法人の歩んだ16年間における地域への貢献や、特に石神井町つつじ保育園と光が丘第十保育園の運営を高く評価され、また第三者評価を経て、厳しい審査の上、委託を任せられることとなった。

【引継ぎ期間】

令和4年4月1日～令和5年3月31日まで

【引継ぎ準備室】

令和4年5月より、大泉町6-29-16 アビタシオン壱番館202号室

【引継ぎメンバー】

4月～12月：月に8日から12日程度の引継ぎ

園長候補（元、石神井町つつじ保育園長）

副園長候補（元、石神井町つつじ保育園 保育士）

引継ぎ支援（光が丘第十保育園 元副園長、光が丘第十保育園引継ぎ経験あり）

1歳児リーダー候補（令和4年4月1日入社 石神井町つつじ保育園 保育士）

2歳児リーダー候補（元、光が丘第十保育園 保育士）

3歳児リーダー候補（元、光が丘第十保育園 保育士）

4歳児リーダー候補（元、石神井町つつじ保育園 保育士）

5歳児リーダー候補（元、石神井町つつじ保育園 保育士、光が丘第十保育園引継ぎ経験あり）

1月～3月：月20日の引継ぎ

1月から14名が加わり、22名のメンバーで引継ぎを行った。

1月 栄養士候補（元、石神井町つつじ保育園 栄養士）

調理師候補（元、石神井町つつじ保育園 調理師）

栄養士兼調理師（元、石神井町つつじ保育園 栄養士兼調理師）

栄養士兼調理師（令和5年1月新入職員）

1歳児～5歳児保育士候補8名（令和4年6月～順次採用職員）

2月 用務候補（令和5年1月新入職員）

看護師候補（令和5年2月新入職員）

【引継ぎ計画】

練馬区が提示した計画書に則り、各月に引き継ぐ具体的な内容を4月より開始した。

練馬区保育計画調整課運営支援係より、2名、令和5年1月からは3名の担当巡回職員が、東大泉保育園と引継ぎメンバーとの橋渡しと調整を担った。

【引継ぎ計画の基本的考え方】

- ・東大泉保育園の園運営や保育内容を伝えることを基本とし、園児一人ひとりの育ちや個性を大事にする。園児の情緒の安定を第一に考え、急激な環境の変化がないように配慮する。保護者の思いを

受けとめ、連携を大切にする。引継ぎを行うにあたっては、段階を踏んで丁寧に行う。

【引継ぎ内容】

- ・管理運営・安全管理に関する事項（約45項目）
- ・保育（業務）運営に関する事項（約36項目）
- ・その他、近隣への挨拶や、多人数の配慮、最終確認事項など

※実際には多岐に渡りもっと多く、調理、保健、用務それぞれに多くの引継ぎ項目がある。

【保護者との意見交換会・面談】

開始前の2回、更に年度初めと年度末の保護者会の計4回に渡る意見交換会が実施されたが、質問には誠意を持って答え、引継ぎ時に笑顔の挨拶を継続し、保護者の不安を払拭でき、法人の運営への期待が高まるのを感じるようになった。また9割以上の家庭と面談を行うことができ、保護者の事情の理解と法人の目指す保育への理解もされるに至り、保護者との距離が近くなった。

【引継ぎが開始されてからの問題】

東大泉保育園の考え方により、園長候補と副園長候補は、保育に携わることや保育室内に立ち入ることを禁じられ、子どもの顔と名前を覚えられず、また保育の理解が進まず、理事長と一緒に区へ改善を要望したが、すぐには改められず、2月下旬になり、緩やかな態度になり。3月になり急ピッチで引継ぎが進んだ。

委託先の園の考え方を優先するとの考え方であるが、区の提示している引継ぎの基本的考え方によらし、これでスムーズな引継ぎに繋がるのかと思うことが多かった。

【引継ぎ最終月を迎えて】

準備室は、東大泉保育園に徒歩3分半という近さで、大変、利用しやすかつた。

令和3年度から、委託を見通して、早めの採用を開始し、余裕のある人員を確保できた。保護者も毎日の訪問に、法人職員と馴染み、正門の解除キーの変更を伝えることもスムーズであった。コットカバーや布団カバーの掛ける負担が無くなることや延長保育時間など、サービスの拡大を心待ちにしていることが会話の中で感じられる。今後は保育の質をより高くしていくことを目指し、未来ランドが委託してくれて良かったと思われるよう、全職員が1チームになって頑張る決意で、3月31日夜20時に東大泉保育園の鍵を受け取った。（翌日4月1日（土）は、入園説明会と55名の職員全員が集合する全体会議を予定）

令和 5 年 3 月 31 日

令和 4 年度 すまいるベリー保育園事業報告書

1 事業者名 社会福祉法人未来こどもランド すまいる・ベリー保育園

2 事業開始年月日 平成 27 年 4 月 1 日

3 全体概況

今年度も昨年に引き続き、練馬区保育施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに従い、感染症予防に努めた。保護者にもマスクの着用をお願いし、送迎の際には密集を避けるため、マンション口での対応は一人、正門口では二人までと人数制限を協力を得た。また、子どもたちは年齢が低いため、マスクの着用はできないが、登園の際には児童の検温と手洗いを徹底した。保育者はマスクの着用と、手洗いの徹底、出勤前には各自健康状態を記入し、体調が良好であることを確認してから保育に入るようとした。また、保育中は換気に十分に行い、園内消毒（玩具、棚、柵、扉、床等）も徹底した。職員や児童が新型コロナウイルス感染症になり臨時休園することもあったが、感染を広げることなく最小限に抑えることができた。

利用定員については、4月当初は、2歳児 8 名、1歳児 8 名、0歳児 2 名、合計 18 名。年度途中での入園があり最終的には2歳児 7 名、1歳児 8 名、0歳児 5 名。合計 20 名となつた。

職員体制については、新しい職員が 2 名入職した。コドモンの操作等（ドキュメンテーションを含む）に慣れるまではある程度時間が必要だと感じた。ドキュメンテーションについては、保護者に喜んで頂けた反面、限られた時間の中で日誌（活動記録、振り返り反省）連絡帳、週案等、その他保育の書類業務が多く、職員に余裕がないように感じた。今後は業務を見直して、効率化や改善に向けて職員間で話し合っていきたいと思う。（コロナ禍では、これまで以上に消毒や清掃を丁寧に行い、その他の業務も増えていることもある為）

職員の園内研修については、全員が研修に参加できなかつたので、研修に参加した職員が参加できなつた職員に報告や発表をして、職員間で共通理解できるよう努めた。

研修に参加した職員の中には、職員間に留まらず、保護者にも伝えていきたいという思いから、研修で学んだ一部の内容をまとめ、資料を作成して保護者に配信した。保育実践にも活かされ、インプットしたことをアウトプットしていくことで学びが深まっていることを感じた。

食育については、食べるものを直接触れずに食育を進める方法を考えた。その日の給食にでる食材を 2 歳児クラスの子どもたちに見せたり、捨ててしまう野菜の皮や端の部分に触れたりした。また、2歳児クラスでは、野菜を育てて野菜に興味を示す姿が見られた。

保護者が参加する行事については、新型コロナウイルス感染症対策の為、全て中止と

なった。大きくなったね会については、子どもたちの様子（生活と遊び）を動画で配信して観ていただくことにした。

連携施設については、卒園後の受け皿として引き続き、白ふじ幼稚園・関町カトレア幼稚園と協定書を締結している。今年度は2名関町カトレア幼稚園入園することができた。その他の卒園児も全員近隣の保育園等に入園することができた。

保育内容の支援に関しては、上石神井第二保育園と協定書を締結している。今年度は2歳児クラスが環境学習に参加させていただくことができ子どもたちも喜んでいた。

代替保育（保育内容に関する支援および相談等を含む）の連携施設については、同じ法人内の石神井町つつじ保育園と連携に関する覚書を締結している。

5月に新型コロナウイルス感染症が流行り職員の休みが多くかった際には、1日休園を余儀なくされたが、その日以外は、保護者に数日短時間保育のご協力をいただきながら、石神井町つつじ保育園の保育士に応援に来てもらい、開園を継続することができた。

また、石神井町つつじ保育園の看護師には、日頃から園児の健康面の相談や新入園児健康診断の手伝いなどの協力を得ることができた。

業務改善と保育の質向上を鑑み、「コドモン」を導入しICT化を進めてきたが、日々の記録が多くなり、なかなか業務時間の削減ができず悩んでいたが、保育士の意識が変わり簡潔に記入する工夫をしてきたことで、徐々にではあるが改善の兆しが見えてきている。こうして生み出した時間は、保育士の心のゆとりとなり、子どもと関わる時間や保育者自身の食事時間を含む休憩時間の確保にも繋がった。保育の質向上については、ドキュメンテーションを導入することで保育士の子どもの見方が変わり、子どもの興味関心を捉えた子ども主体の保育に取り組むことができた。

コドモンについては、今後も保護者に子どものたちの成長をわかりやすく伝えられるよう工夫ていきたい。また、コドモンに対しては、システム上不便なところが多々あるので、より良いものになるよう要望書を申請し、システム改善（業務改善）に繋がるよう努めていきたい。

今年度は、より良い保育を実施していくために、保育園に対するアンケート調査を保護者の方に実施した。好意的な感想を多くいただくことができたが、保護者が参加する行事や保育参観、保護者会等を実施して欲しかったという感想を頂いたので、感染症が落ち着いたタイミングで、保護者が参加できる行事も実施していきたい。ただし、0歳児～2歳児クラスの小さな子どもたちの発達や個人差も踏まえて、どの子も無理なく楽しんで参加できる内容を考えていきたい。

4 保護者会等実施状況

- ・保護者会⇒5月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症が流行ってしまった為、安全を第一に考え中止とした。
新入園児も含め、友達のことを知つてもらうために、子どもの姿を写真付き自己紹介をお便り配信した。
- ・個人面談⇒ 10月の他、必要に応じて保護者のお迎え時間帯に合わせて実施した。（希望者や普段じっくりと話ができる保護者対象）保護者の方の子育ての悩み等をじっくり伺うことができたことで、家庭と保育園で連携を取りながら、子どもと保護者への支援を行ってきた。必要に応じて家庭支援センターの方にも協力を得ることができた。
気になる児童に対しては、時期を問わずに保育園から個別で声掛けをして面談を実施してきた。

5 保護者との連携

(1) 各たよりの発行状況

名称	発行回数
園だより	毎月
クラスだより	毎月
えいようだより	毎月
ほけんだより	毎月

6 地域との連携

・地域交流・地域子育て支援

項目	実施内容	実施回数 参加者
地域交流	2歳児クラスのみ、上石神井第二保育園の環境学習に参加させていただき、ごみ収集の様子を見学することができた。	1回
地域子育て支援	保育所体験	0回

地域子育て支援	出産を迎える親の体験学習	0回
地域子育て支援	小中学生の育児体験受け入れ	0回

※地域交流に関しては、新型コロナウイルス感染症が流行る中で、直接触れ合うことなど積極的な地域交流はできなかったが、近隣の方や散歩先で出会う方々にこちらから気持ちよく挨拶するよう心がけた。

7 給食（アレルギー対応や安全、衛生管理について）

卵アレルギー児がいたので、間違えが起きないよう、全職員に「食物アレルギーの対応マニュアル」を配布して周知した。

衛生管理については、衛生管理表に基づき、日々チェックを行い、安全で安心な給食づくりを徹底した。

また配膳する保育者や非常勤職員も身支度をマニュアル通りに徹底し、配膳時も衛生面に十分配慮してきた。

8 園児の健康管理

	実施の有無
健康診断（春・秋）	有
身体測定（月1回）	有

9 感染症等への対応

新型コロナウィルス感染拡大防止対策として、園児に対しては、登園の際に検温を実施し、入室の際や食事前は丁寧に手を洗うよう援助してきた。子どもも大人も除菌作用のある液体石鹼での手洗いを実施し、各手洗い場と玄関には手指のアルコール消毒を設置した。

保護者には、送迎の際にマスクの着用をお願いし入室も控えていただき、荷物の支度などは全て保育者が行うようにした。また、送迎の際の対応は、マンション口は一人（ひと家庭）正門口は2人（ふた家庭）までとし、密集しないよう保護者の協力を得ながら、人数制限を設けた。

職員についても、マスクの着用と手洗いの徹底し、出勤時には健康チェック表に体温等健康状態を記入し、体調を確認してから勤務に就くよう健康管理を徹底した。

室内の換気や床、棚、柵、テーブル、椅子、玩具など園内の消毒も徹底し、食事の際は、クリアパーテーションを設置し、飛沫が飛ばないよう配慮した。

見学者に対しても健康チェック表を記入してもらい、健康であることを確認してから入室していただくよう協力を求めた。（できるだけ大人1名での見学をお願いした。）

5月には、新型コロナウィルス感染症に罹患した職員が多く、出勤できる保育士が少なかったので、5/17は休園を余儀なくされた。翌日からは、石神井町つつじ保育園から応援をもらいながら、保護者には短時間保育の協力をいただき運営を継続することができた。

※「練馬区保育施設における新型コロナウィルス感染症対策ガイドライン」に従い対応した。

10 個人情報について

就業規則に個人情報保護法に基づく法令の順守を定め、採用時に書面で確認している。

児童票などの保育書類やタブレット、パソコン、カメラは事務所の鍵のかかるところに保管している。

タブレット等の返却時には台数を確認し、返却忘れが無いよう徹底した。保護者には、個人情報の利用目的について入園の際に「個人情報提供同意書」を全世帯から得た。保護者に対しては、ネットでの写真やその他の個人情報を流出、公開することのないようお願いした。

放課後児童健全育成事業

令和4年度 未来こどもランド学童保育 事業報告

◆定期利用児童 6名

◆一時預かり枠登録者（定期スポット、単発スポットを含めて） 15名

◆対象児童 小学1年生～小学6年生

日々、アットホームな保育を心がけており保護者との連絡や連携を密に持つよう心掛けている。子ども達の心の安定、日々の健康に留意して学校生活、宿題、遊びとメリハリのある生活ができるよう職員も気を配って保育をしている。今年の夏休み、冬休みの長期休み利用者は例年より減少し、定期利用の児童数も減少している。

コロナ感染拡大防止の為、密にならないように心掛け換気も十分に行う。感染状況に波はあるが長期休み中は今までより少し減らしたイベントを計画し子どもたちが楽しめる行事を行った。また公共交通機関を利用しての戸外活動も再開する事ができ、子ども達に新たな体験をさせる事が出来た。

地域子育て支援拠点事業

民設子育ての広場 すまいる石神井 令和4年事業報告

◇開催曜日：月～金

◇公園遊び：11月・3月

◇開催時間：10時～15時（12時～13時は消毒の為一時閉館）※練馬区の指示により12月より一時閉館をなくし通じて開催。

子育てひろばでは、毎月イベントを開催し多くのお子さんや保護者の方に来館して頂いたがコロナ感染拡大防止の為予定していた講座は回数を減らし予約制と人数制限を設けて計画し実行した。毎回、予約はすぐに定員になりキャンセル待ちが出るほど人気の講座もあった。

「おたのしみタイム」では手遊び・絵本の読み聞かせの他、季節の行事を取り入れ親子で思い出に残る製作を行った。防災センターの方にも来てもらい講話や乳幼児向けの応急処置方法教えてもらった。また委託園の栄養士さんや看護師さんによる離乳食や育児についての講座も行い孤育てにならないよう、保護者の方に寄り添い少しでもサポートできるようにこれからも取り組んでいきたい。

コロナ感染拡大防止の為、室内・おもちゃの消毒の為12時～13時まで一時閉館となっていたが12月より消毒は継続し一時閉館はなしという前年度とは違う運営で少し難しさはあったが練馬区の方針に従い開館。来館者は一時閉館がなくなり利用しやすくなったとの声もきかれ午前と午

後に分散していた来館者もさらに分散されて1日を通してすごく込み合っている時間が解消された。今後も練馬区の指示に従い、子育てひろばの地域の役割を考え利用者の皆さんのが安心して遊んでいただけけるような環境づくりを続けていきたいと思う。

民設子育ての広場 すまいる高野台 令和4年事業報告

- ◇開催曜日： 月～金
- ◇公園遊び： 令和4年度 2回開催(11月・3月)
- ◇開催時間： 9：00～14：00

4月、5月までは電話での予約制だったが、6月から予約なしで5組程度入室可能とした。年が明けて1月からはお昼の消毒タイムもなくなり、通しで開室。その後入室制限は行っていない。おもちゃを二つに分けて、午前午後で入れ替えを行うことで、使用した玩具の消毒を行い感染予防に努めている。イベントについては、お楽しみ会の他に絵本クラブの方々の読み聞かせ会や英語、離乳食講座、公園遊びなどを少しずつ再開することができた。また、練馬区防災学習センターの方に来て頂いて、応急処置講座を開催。心臓マッサージや止血の方法・誤飲の対処法などを教わることができ、保護者からも沢山の質問が出て有意義なイベントとなった。

指定特定相談支援事業・障害児相談支援事業

令和4年度 すまいる相談支援室 事業報告書

利用契約者数 令和4年3月末 現在 登録者数 401名 実働 175名

職員人数 事務 1名 管理者・相談支援専門員 1名 相談員 1名

活動内容

障がいを持つ方をサポートする福祉サービスが複雑化するなか、相談者さんと面談とモニタリングを経て、それぞれに必要とされるサービスを選択し、療育を含む年間の支援計画を作成し提供している。

毎年利用人数が増加しているが、丁寧な聞き取りをこころがけニーズを読み取るようにしている。定期的に保護者の方と面接を行い利用者さんの情報を聞きながら、ご利用になりたいサービス内容を盛り込んだサービス計画案を作成する。また、同時に他のサービスが必要な場合には情報提供を行う。

福祉サービスを継続する方には、適切なサービスが提供されているか、新たなニーズが無いかを確認しながらサービス計画を作成する。

半年に1回のモニタリングでは、サービス計画が各事業所において的確に遂行されているか確認をしながら、新たなニーズが無いか等聞き取りモニタリング報告書を作成する。

令和4年より、事業所が本社谷原ビルに移転し、相談支援員の変更と相談員が加わった。新しい相談室になり、開放的な空間で親子面談を実施する事が出来るようになった。また、学校や保育園、福祉サービス事業所と連携を図り、より良い支援に繋がるように支援者会議を定期的に開催した。また、利用計画の齟齬がないように事業所と連絡を密に取る事で、より緻密な利用計画になるよう努めた。

令和5年4月より相談支援員を増員する。

障害児通所事業

令和4年度 放課後等デイサービス すまいる・ステップ事業報告書

利用定員 1日10名

利用契約者数 24名

職員人数 7名

管理者及び児童発達支援管理責任者 1名・保育士 4名・児童指導員(介護福祉士) 1名
指導員 1名

利用実績表 (実際に利用した人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期合計
実績数	186名	208名	188名	202名	191名	210名	1,185名
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
実績数	195名	224名	175名	187名	189名	211名	2,366名

全体概況

- ・今年度も感染予防対策を取りながらの1年間。職員は東京都による週2回の抗原検査を実施し、遊戯室や玩具の消毒を徹底して行った。また、練馬区による利用児童に対する抗原検査は、24人中14名の方が協力いただき、毎週実施をして感染拡大の予防に努めることができた。
- ・日々の活動では、常に会議において改善案を職員全員が提出してより良い療育を目指して話し合いを行っている。

年間の活動状況

- ・夏休みの一日保育は、音の輪さんに来ていただき、「ドラムサークル」を実施。また大きな窓を使用した泡遊び、縁日遊び等を行った。子供たちは1日一緒に過ごす事を楽しみにしている。
- ・放課後等デイサービスへのおやつお届け事業を行っている「ねりべじや」に手作りおやつの配達を依頼。無添加の手作り味噌と練馬野菜のお味噌汁・炊き込みご飯・季節の果物を使用したお菓子など、おやつを通した食育を実施。利用児、保護者から好評である。
- ・年2回、谷原施設の体育館を借りて、サーキットや集団遊びを実施。大きな遊具や巧技台を使用できるため体を思い切り使って遊び、子供たちの普段の姿と違う一面が見られた。
- ・年2回の保護者面談を実施。前期は書面又は電話相談と対面が半分の割合だったが、後期の面談は24名中23名の方と対面にて実施ができ、子供たちの姿を共有することができた。卒業される保護者の方とは、ともに成長した姿を喜び合うことができ職員としては励みになった。
- ・今年度も保護者から電話による相談が多くよせられた。中でも小学校での困りごとが多く、保

護者の話を丁寧に聴くことに努め寄り添うようにした。

令和4年度 放課後等ディサービス すまいる・ツリー事業報告

利用定員 1日10名

利用契約者数 22名

待機登録者数 7名（2023年度利用予定者）

職員人数 7名

児童発達支援管理責任者1名 保育士1名 児童指導員 3名 指導員2名

利用実績表（実際に利用した人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期合計
実績数	155名	140名	153名	143名	113名	156名	860名
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
実績数	156名	178名	165名	160名	162名	189名	1,870名

日々の活動

レクリエーション ゲームなどをしながら他者意識の向上を図る
輪投げ、タオル引っ張り、クイズ、ボッチャ、ダンス、○×(2択)クイズ等

音楽 季節の歌ったり楽器を演奏したり、流行りの曲に合わせてダンスを楽しむ
季節の音楽、リトミック、楽器演奏、中高生に人気の曲でダンス

買い物 施設内や近所のコンビニを利用して、公共のマナーを学び、支払いの練習を行う
室内買物 駄菓子屋さん、ケーキ屋さん
屋外買物 ファミリーマート
それぞれ上限200円の中で、購入できる品物を自分で選び購入をしてもらう。

読み聞かせ 季節や風習にまつわる絵本や紙芝居を見たり読んだりする
絵本・大型絵本の読み聞かせ、利用者に前に出てきてもらい紙芝居を読んでもらう

運動 体の動かし方や使い方を覚えて楽しく運動を行う

ボール運動とサーキット運動を交互に行う。活動内容も回数を重ねる毎に目標を高く設定していく事で、体幹やバランス感覚など1年間での利用者の成長を感じる事が出来た。

避難訓練	年5回実施。火災時と地震時に備え、ヘルメットを被り避難経路を知る 1回目は座学にて避難訓練の標語の確認、ヘルメットの着脱練習、おやつに避難食の提供を行う。その後は、地震・火災訓練を2回ずつ行う。教室内、体育館など、シチュエーションを変えながら取り組む
工作	道具の使い方、片づけ方、困った時にはどうすればよいのか。という事を活動のテーマとして1年間取り組む。また、季節ごとの工作や、文化・風習に触れながら活動を行う。 活動内容としては、年賀はがき、七夕飾り、ポストカード、クリスマス飾り、卒業生へのプレゼントなど、季節に関する作品をメインに作業を行う

今後の課題

①利用人数を増やす

今年度は、新型コロナウイルスの影響、既存の利用者の都合(学校に行けていない、気分が乗らない)等の理由もあり、昨年度に比べて年間利用人数が減少してしまった。利用者・保護者に「すまいる・ツリーに行きたい」と言ってもらえるような活動を実施すると共に、利用者・保護者の状況をしっかりと確認して、必要なら個別で面談を行い、どうすれば来てもらえるのかと一緒に考えて、利用回数を増やしていく。

②質の高い支援を行う

中高生が在籍するデイサービスとして、将来の自立に向けた支援を行っている。本人主体になるように自己選択、自己決定の経験を積めるよう支援をする。また、外部の研修に参加し、研修で学んだ事を他の職員に伝達、報告をしていく事で、支援の質を向上させていく。

毎年変わる利用者に合わせた課題設定や支援を職員同士で話し合い、支援の仕方統一をしていく。利用者一人一人の気持ちに寄り添いながら、質の高い支援を提供できるように、利用者の様子や日々の変化など、職員間でしっかりと話し合いながらコミュニケーションを取ることを心掛けていく。

令和4年度 児童発達支援 すまいる・キッズ 事業報告

利用定員	10名（1日）
利用契約者数	29名
職員人数	5名 管理者及び児童発達支援管理責任者 1名 保育士 3名 ・ 作業療法士 1名

利用実績数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期合計
実績数	124	129	157	140	158	177	885
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～3月合計
実績数	189	191	173	170	164	187	1959

※利用実績数は体調（利用児、保護者、兄弟）、行事（幼稚園、保育）、天候等により変動する。

新型コロナウイルス感染症関連

【利用児の様子】

コロナ禍3年目ということもあり、保護者の感染対策や体調管理への意識に温度差が見られるようになった。来所時に丁寧な聞き取りや視診を行い、健康状態を確認した上で受け入れるようにしてきた。冬期（12～2月）は、2年間流行しなかったインフルエンザやウイルス性の胃腸炎に罹患し長期欠席する子どもが増えたことで、特に2月の利用実績数が減少した。

【保護者対応】

保護者交流会はコロナ禍1、2年目同様中止したが、2歳児保護者対象の〔プチ保護者会〕と、3～5歳児保護者対象の〔保護者会〕を再開した。〔プチ保護者会〕は『排泄について』『絵本について』の各テーマで実施した。〔保護者会〕は就学に向けての情報提供を中心に、就学相談や就学支援シートの活用・放課後等デイサービスの紹介等も行った。3～5歳児保護者対象の保育参観は、前年度同様1日1組に限定し、検温、手指消毒、室内換気徹底の上で実施した。（6月と1～2月）

【陽性者対応】

利用児及び家族から数名の罹患者は出たが、利用児や職員に感染拡大することなく落ち着いた。

夏期グループ療育（初）

個別療育利用児対象に、夏休み期間限定（8月の水曜日午前）で、グループ療育希望者を募った。12名中9名が希望し複数回利用する子どもも多く、子ども、保護者、職員共に好評だった。特に保護者は、1か月以上の長い夏休み期間に短時間ではあるが預けられることで、負担感の軽減に繋がったことがアンケートからも読み取れた。職員も、個別療育の中では見えてこなかった利用児の強みや、困り感が見られたことで、その後の具体的な支援に繋がった。

パンフレット

事業所開設当初に作成したパンフレットの在庫が僅かになったこともあり、パンフレットを作り直した。改めて職員間で事業所の特徴を話し合い、掲載内容の検討と見直しを繰り返した。療育内容や実際の様子がわかりやすいように、保護者の許可を得て子ども達の写真も多く掲載するようにした。

障害福祉サービス事業

令和4年度 就労継続支援B型 すまいる・フォレスト事業報告書

事業目的

利用者が日々笑顔で毎日を過ごせるように、働く生活を通じて、自立に必要な「生活力・仕事力・余暇力」の知識や技術を育成し、「社会力」を身に付ける事で「人間力」の向上を計り、「自己実現」を目指す。また、集団生活を通じてコミュニケーション能力の向上を図ると共にルールやマナーを身に着ける事で「協調性」を養っていく。利用者の「人生を豊か」にしていく。

利用定員 1日20名

利用契約者数 23名 新規契約者7名・退所者2名（法人内雇用1名を含む）

待機登録者数 0名

職員人数 7名

- ・管理者（施設長・社会福祉士）1名
- ・サービス管理責任者（保育士）1名
- ・目標工賃達成指導員 1名
- ・職業指導員（介護福祉士）1名
- ・支援員（非常勤職員）3名

*職員退職者なし

今年度の作業・活動計画の結果と課題

*週間での取り組み

- ・受注作業… コロナの影響は続いていた1年。継続作業が回復してきた感じはしたが、単発作業の頻度も増えていた。しかし、その作業先の一部と定期的な作業継続も見られた。
- ・生産作業… 東大泉保育園の関係もあり、法人内でのタオル、Tシャツ、ウインドブレーカーなどの刺繡等の作業は増えていた。コロナの影響が減少する中で販売会への参加頻度も増えた事により作業頻度や売り上げはコロナ前の状態に戻った感じの1年。
- ・食品作業… はちみつが「2022年度ねりまコレクション」に認定された。オリーブオイル、ハーブソルト、ペッパー等に続き今年度に「アップル・レモンビネガー」を新商品として発売した
- ・外部就労（カフェ業務等）…長く勤務していた利用者が10月より法人で「障がい者雇用」で常勤となっている。食品作業に伴い、カフェには定期的に利用者が作業に行くことが定着してきた。今後は、実習も含めてカフェ業務を行える利用者を増やしていきたい。

*月間の取り組み

- ・販売会出店…10月より2年ぶり位に「ハッピースマイルフェスタ」が再開された。今年度は3回だったが来年度以降、また年間7～8回開催予定なので参加していきたい。
また、土曜日か日曜日には、「われもこうマルシェ」にも参加できた。
- ・ねりいち…今年度のねりいちは、月1～2回程度の参加。区役所以外でも「ココネリinねりいち」に参加した。
- ・委託展示販売（われもこう）…年間を通じて行う事が出来た。毎月、代表者やあかねの会の職員と打ち合わせを行う事で連携の強化に繋がったと思われる。
- ・余暇活動…コロナを配慮しながら今年度は、計画で上げた3つの目的別余暇を実施する事が出来た。余暇活動が充実する事で日々の作業へのモチベーションが上がったり、作業以外でのコミュニケーションにも繋がる場面が多く見られた。
- ・社会人マナー…昨年同様に職員の動画を主にグループ別の話し合い等を行ってきた。テーマは、内容によって昨年の内容を繰り返す回と新作で行う回と職員にも負担のない範囲内で行ってきて、利用者、ご家族等にも好評だった。
- ・身体測定…毎月決まった日に行ってましたが、利用者自身が決めた日に実施するやり方に変更を行った（自己管理・作業時間減少の分散化のため）

*3カ月毎の取り組み

- ・ケース検討会は、切り替え時期前の2カ月の8月9月、2月3月のPMを休みにして実施した。
- ・作業評価表は、単発作業にも対応する新たな評価基準等の検討が急がれるが来年度以降の課題としたい。
- ・避難訓練は、3か月毎に利用者には告知しない方法で職員は計画的実施した。
- ・職員面談は、3カ月毎に実施した。利用者同様、職員の働きやすさ、やりがいを考える事でより良い支援に繋げてきた。職員メンバーも固定、安定してきているので来年度以降は頻度を減らしていく事を検討している

*6カ月毎の取り組み

- ・個別支援計画の作成は、利用者面談、ご家族の聞き取り、ケース検討会を経て作成をした。まだコロナ禍の影響で不十分な点も多々あったので、来年度は計画的に丁寧な取り組みをしていきたい。
- ・工賃検討会は、作業評価表と連動して、コロナ禍の影響で単発作業が増えた事もあり、従来の評価基準に類似した考え方で担当職員が行った。来年度は、現状の作業に対応出来る評価基準表を作成して評価する職員も増やしていきたい。
- ・家族会は、9月と2月に実施。対面とリモートの選択制のハイブリットでの開催を行う事が出来た。
- ・「がむしやら」の委託展示

販売は、6月～8月の3か月継続して行えた。

- ・Tジョイ、パスコートマルシェ等の予定していた販売会以外にも練馬区の合同販売会、西武マルシェ等の参加を行った。継続、単発販売会も含め来年度以降は土曜日、日曜日の出店も検討しているので販路、売り上げの拡大をしていきたい

*法人連携の取り組み（法人連携）

- ・法人内保育園からは、卒園用コサージュを始めTシャツ、エプロン、タオル等の刺繡等の協力があり売り上げに貢献してもらった。来年度以降も継続してもらえるように商品向上に努めたい。
- ・法人内カフェでは、常時生産品の販売を行った。新商品の「ビネガー」も加わり売り上げ向上に繋がっていた。来年度以降も継続していきたい。
- ・各保育所、事業所の保護者会等への生産品の販売参加はコロナの影響が残り、今年度も相談する状況ではなかった。来年度以降も実施出来る見通しは持てないが将来的には各保育所、事業所と連携をとり実施を検討していきたい。

+

【今年度の実施計画の結果と課題】

*利用者確保

コロナの影響は残っていたが、見学・実習は状況を見ながら可能な限り行ってきた。日々の利用者人数を18～20名を目指していたが、16名程度に留まった。今年度も精神系の方は、時間を掛けながら出勤日を増やす利用者がいる一方、不安や体調不良により長期欠勤や長期の入院になってしまった方もいた。退所者が就労移行者も含めて2名に対して入所者は7名いたので最終在籍者数は23名となり4月からの内定者を含めると24名になるので在籍者数としては良い人数となっていると思われる。来年度以降も1日の利用実績20名を目標にしていきたい。

*受注作業

受注作業では、昨年度に比べ継続作業先が少しずつ物量は増えてきている状態。しかしコロナ前までは戻っていない。利用者が増えている事もあり、今年度も昨年同様の単発作業や新規開拓を行った。レインボーワーク以外でも単独で探したり、練馬区の内職者希望業者と連絡を取ったりした。まだ「薄利多売」な案件が多い中、継続作業や仕事量とのバランスを取って日々の作業に反映させていきたい。

*生産作業

クルミルショップは継続出店を行った。参加する販売会も増え、特に土日の販売会への積極的参加やコロナの影響で中止していたハッピースマイルフェスタが10月より再開した事もあり、生産作業の時間は増えてきていた。計画していた商品開発や通信販売の検討は、食品作業が増えた事で進まなかつた1年。在庫管理の徹底、部材、材料等のコスト等は昨年度より意識して行えたと思うので継続しながら食品作業とのバランスを取っていきたい。

*食品作業

はちみつが「2022年度、ねりま・コレクション」に認定され、6月より「石神井観光案内所」に展示販売が開始した。各種はちみつ、オリーブオイル、ハーブソルト、ペッパー、オートミールクッキーに続き「アップル・レモンビネガー」を新商品として販売を開発した。商品数も増え、オリーブオイル、ハーブソルト、アップル・レモンビネガーで「自分好みのドレッシング作り」を提案する事で3商品の同時購入にも繋がった。農福連携の関係もあるが今後も商品開発を検討しながら、在庫管理の徹底、部材、材料等のコスト、購入等も意識して収支に見合う商品開発や商品数を意識して行っていきたい。

*余暇活動

「イベント余暇・フリー余暇・午後余暇」と目的を変え、利用者さんアンケート等も実施して年間計画を立てたが、月によっては中止、変更等が多かった。しかしバスツアーは実施でき、日光猿軍団、リンゴ狩りなど1日楽しむことが出来た。来年度も見通しは立たないが月毎に検討して実施していきたい。

*社会人マナー

今年度も、毎月1回午後の時間を利用して動画による社会人マナーを実施した。社会人としての必要なスキル（「立ち振る舞い」や「公共交通機関でのルールやマナー」等）を職員がテーマに沿って動画を録画し、利用者が視聴後に2～3グルーに分かれ感想等の意見交換等を行った。来年度は、視聴から利用者同士で模擬体験を行う事も検討していきたい。

*一般就労体験

法人内カフェでの店員業務は月曜日から金曜日の5日間4名の利用者が曜日を決めて継続的に行った。その中の1名の利用者が10月より法人内での「障がい者雇用」に繋がった。その方の継続勤務でカフェ業務体験は減ったが食品作業増により対象利用者がカフェに勤務する頻度は若干減った程度で済んでいた。それ以外の予定していた法人内保育園の実習等は検討・相談まで行ったが実施に至らなかった。レインボーワーク主催の会社見学会も実施がなかつたので参加は出来ていな

*利用者工賃

作業（受注・生産・食品作業等売り上げ）に伴う毎月の収入

前期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績額	¥174,167	¥176,919	¥309,451	¥278,358	¥273,411	¥246,362
後期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実績額	¥235,857	¥996,189	¥175,463	¥227,922	¥230,768	¥307134

*生産品の材料費が相っているため純収益は¥3,632,000 すべて利用者さんに還元しています。

*平均工賃…¥15、655

農福連携の結果と課題

例年通り、伊東市の社会福祉法人クープの就労継続支援B型のプラウ（河合農園）の連携で無農薬の

有機栽培のオレンジとレモンではちみつシリーズを作り販売した。その果物を使用した「はちみつシリーズ」が2022年度ねりま・コレクションに認定されている。

かとちゃんファームより依頼された「イチゴを使った食品ロスを減らすための企画」で商品化された、イチゴジャム、イチゴドレッシング、イチゴバターは昨年同様、農協や各種販売会で販売を行った。昨年、加藤農園と行った黒ニンジンドレッシングは加藤さん多忙のため見送られた。

練馬区主催の「ビジネス交流会」に参加して、数軒の農家の方と知り合う事が出来たので来年度は、新しい取り組みや商品開発の検討をしていきたい。また、商品化できた物については公益事業のカフェを通じて試食や販売促進し地域の多くの方に知っていただく工夫をしていく。

関係機関等との連携の結果と課題

*見学・実習等

今年度も各関連施設からの見学、実習に伴う問い合わせ等は多数あった。福祉事務所、保健相談所、相談事業所、クリニック等からの紹介で契約にも結び付いた利用者もいた。今後も法人理念や社会貢献も含め、見学者や特別支援学校実習生等は受け入れて行きたいと考えている。

*一般就労等

今年度は、継続的に一般就労体験として「カフェ業務」を行ってきた利用者1名が未来こどもランドの「障がい者雇用」として10月に契約を行った。これで1年1名程度だが3年連続で一般就労へ送り出すことが出来ている。今後も利用者の希望を主に1年に1名程度は一般就労へ繋げていく取り組みは継続していきたい。

今年度まとめと来年度に向けて

今年度は引っ越しがあり、4月4日（月）より受け入れで、多少環境設定的には落ち着かない開始となつたが、利用者を含めて大きな混乱やトラブルなくスタートは出来た。環境の課題については、毎月の全体会議内に振り返り時間を設定し、数か月間かけて利用者、職員共に働きやすい環境を整えてきた。コロナの影響は多少残っていたが、受注、生産、食品、販売会など少しづつ戻ってきたと感じられる1年となった。また、法人の都合もあり、人事的な変更もあった（一部は6月より実施）。管理者、サービス管理責任者が変更し、それに伴い常勤職員が1名正規職員となった。

管理者が他事業所との兼務になった事もあり、職員全体（正規職員、常勤職員、非常勤職員）で役割分担の見直しや引継ぎ等も行った。環境、利用者増、作業増の問題もあり10月より非常勤職員を1名雇用した。月曜日だけ職員が1名カフェ業務となるので体制的には1名少なくなるが、他曜日は5名体制となっている。来年度に向けて各職員のデスクワーク時間の確保が課題となっているので兼務の管理者の定期的作業参加や「障がい者雇用職員」が異動してくる予定もあるので、改善を模索していきたい。

コミュニティカフェ社会貢献事業

令和年度 みんなのカフェ すまいる・VIVIFY 事業報告

事業目的

VIVIFY の意味合い「人を生き生きさせる」「輝かせる」「生氣を与える」というように地域のみんなが生き生きと笑顔で暮らせることを願い、カフェを通じて地域住民同士の触れ合いの場、一人一人が自分の時間としてゆったり過ごせる場所であり、公益事業として申請をしたことにより、地域住民に対する貢献的な働きを求められている。

営業日 年中無休（11時～17時） 土日祝 12時～17時半

*令和元年度より、年中無休として、地域への周知と共に、お客様を増やす努力をした。結果売上も上昇であったが、令和2年度以降新型コロナウィルスによる休業等や対策で売り上げは低迷した。

地域のニーズに応えるために、飲食店が休業などしている中でも継続して年中無休で営業した。



イベント当日はドリンクメニューを学生支援団体が材料も購入し、自分たちで作って提供するスタイルとした。ドリンクメニューの売り上げを団体として使ってもらうことにした

売り上げ金額→40,640円（昨年度 37450円）
学生応援のイベントとして継続していく予定

写真：3月に実施した学生支援団体「はじまりの場所」とのイベントの様子（報告書参照）

販売品売上（すまいるワークス（生産品）・Sweets&Honey Factory（食品））

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
生産品売上	8,300	3,400	14,000	13,900	13,000	12,000	7,200	9,000	10,800	15,300	5,300	25,400	137,600
食品売上	11,250	28,200	22,350	22,150	13,800	25,500	23,200	31,500	19,700	13,100	20,300	16,750	247,800
カフェ売上	19,550	31,600	36,350	36,050	26,800	37,500	30,400	40,500	30,500	28,400	25,600	42,150	385,400

カフェに商品を置いておくことで障害者施設の生産品や食品加工品であることを知ってもらい、商品の背景やストーリー性で購入してくださる方が多い。また食品については、美味しかったことでのリピート

ターや手土産やプレゼントとしても活用していただいている。

実施内容

ドリンクと食事の提供

ドリンク（ホット）メニュー7種 ドリンク（アイス）メニュー5種 アルコールは中止とした
食事メニュー フランクフルト、ワッフル、トルティーヤチップス
隣のピーターパン（パン屋）とカシュカシュ（ケーキ屋）の商品（飲み物以外）の持ち込みを可とする。
パンは温めサービスを実施、ケーキもお皿とフォークを提供する。
*セットをやめて、フードをすべて単品にすることによって、注文が増えた。テイクアウトも良好。

農福連携

昨年度から継続してかとちゃんファームとはいちごジャムといちごドレッシングをカフェでフォレストの利用者が作り、販売した。



地域共生

西武マルシェのイベントの際にライオンズクラブ石神井よりスズシロ汁を無料で提供することで、
ラインズクラブとスズシロ汁のレジピアレンジのフィリップ（ピザ屋さん）と就労継続支援B型のあんずの家がスズシロ汁を作りカフェのスタッフ（フォレスト利用者）と一緒に手伝いをした。昨年度はライオンズクラブよりカフェへのお米の提供があったなど、今後も連携していき、飲食店や地域活動を

行うクラブと地域貢献活動を共にしていく形となる。

子ども食堂 みんなの食堂すまいる

4月より毎月第一水曜日に実施した。予約制の20食限定。HPからも予約できるようになり、手軽に申し込みができるようになった。チラシを作成し、近所の南田中団地に配布などをし集客に力を入れた。比較的ひとり親など親子での参加が多くなってきた。また、知つてもらうためにレンタルボックス等利用されている方の参加も見られた。本来の子ども食堂という意味合いとは違つては来るが、ニーズのある方へという事で発信している。フォレスト利用者の一人暮らしの方などは偏った食生活になりがちなため、参加する方が多い。今後はより広く、知つてもらい利用者が増えると良い。

ボランティアは継続して地域の方とフォレスト職員とフォレスト利用者と理事長で行っている。

参加利用（ボランティアは毎回2～3名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大人	5	5	7	5	休み	5	3	7	8	6	11	11	73
小人	0	0	0	0	休み	1	1	4	3	0	6	3	18

参加者の様子とメニューの写真



新たな取組

*ドリンクメニューにチャイ（ホット・アイス）とコールドブリューを追加した。

フォレストメンバーが作るオーガニッククッキー2種類を販売し、好評である。



*昨年度よりすまいる・フォレストの作る食品加工ではちみつシリーズとオリーブオイルをスタートし、

カフェで販売している。またデザートメニューのアイスやベーグルメニューのトッピングにはちみつオレンジとハーブオリーブオイルをつけて食してもらう機会を設定している。

*食品の新メニューとしては障がい者大泉ホームの就労継続支援B型の栽培する水耕栽培のレタスを購入し3種のレタスを新メニューとし、オリジナルドレッシング（ハーブオリーブオイル+レモンアップルビネガー+ハーブソルト）と季節のドレッシング（農福連携商品）お2種類選択してもらう形で提供した。食品加工品の詰め合わせギフトもお客様のご要望にお応えしている。

*ねりこれに選ばれしたことにより石神井公園駅前の練馬区石神井公園観光協会より発注され、店頭販売している。ハーブソルトなどは人気商品で売りあがっている。



(ギフト用セット)



(ドレッシングセット)

ハーブソルト 500円
ハーブオリーブオイル 900円
アップルレモンビネガードレッシング 900円



伊東市の社会福祉法人クープの就労継続支援B型のプラウ（河合農園）との連携で行った。（農福連携）素材にこだわり全て有機栽培のもので作っている（有機砂糖 有機白ワイン 有機レモン 有機オレンジ）

はちみつオレンジ小 110g 600円 大 250g 1300円

はちみつレモン小 110g 600円 大 250g 1300円

はちみつナッツ小 110g 700円 大 250g 1500円

2023.03はじまりの場所との連携カフェ企画 活動報告書

①企画の目的・背景

● 企画の目的

- 日頃お世話になっている方々へのご挨拶の機会と共に、地域の新たな繋

がりを作るきっかけとすること

- 活動が滞りなくいくよう資金を集めること

● 背景

- 昨年度のカフェ企画の経験から、カフェ企画がお世話になった方への年度末のご挨拶やスタッ

フの仲を深める良い機会になると思い、今年度も開催に至った。

● 企画を通して、今後に次につながること

- 今までの関係性がより深いものになった

カフェの開催後に、カフェの話題で声をかけていただく機会が多く、今までの活動

を通して関わった方々との関係がより深まったと感じる。また、開催中にもゆった

りとした時間の中で、いつもより多くの対話ができた。今後はこれらの関係性の中で、合同イベン

ト開催や地域の中での助け合いを更に強化していきたい。

○ 得られた資金の活用

企画を通して得られた資金を元に、イベント開催や更なる現場の環境向上に努め

たい。

②実績

(1)収支報告

当日売り上げ40,640円

2023カフェ売上・共有用

peatix寄付金14,888円(手数料差し引き前16,500円)

当日寄付金21,800円

支出43,932円

2023.03はじま rikocafe 収支報告書…

合計33,396円

※売上に30円の誤差あり。

(2)その他数値

● 来場者数：100～120人（会計の回数をカウントしたため、一度に複数人分会計していた可能性あり）

○ 時間帯別

■ 12:00～12:30→7回

■ 12:30～13:00→7回

■ 13:00～13:30→16回

■ 13:30～14:00→12回

■ 14:00～14:30→17回

■ 14:30～15:00→16回

- 15:00～15:30→13回
 - 15:30～16:00→10回
 - 16:00～16:30→13回
 - 16:30～17:00→9回
- Peatixページview数：960+（グラフに表示されず正確な数値は不明）
 - （上位内訳）
 - Instagram : 368
 - direct : 326
 - Facebook : 70
 - peatixアプリ : 48
 - Twitter : 36
 - チラシ配布数：110（企業の方が配布協力をしてくれている分も含む）

③当日の様子

参照： 2023.03はじま rikocafe 当日の様子

④当日参加したスタッフの声

- 無事大盛況で終わってよかったです！みなさんお疲れ様でした！
- とてもたのしかったです、中心になって動いてくれた皆様ありがとうございました！
- 無事に成功させられた事が嬉しいです！

終始乗っかっていただけだったけれど、当日とても楽しかったし、参加出来て良かったな
思います！！

- たくさんの人気が来てくれて嬉しかった！
- 席に飾ってある写真やチエキ風の飾りなどの演出の雰囲気が良かった！元の雰囲気が良い場にはじまりの場所の色を混ぜ入れたのが素敵だなと思った。自分がこの団体も、この団体の人たちも大好きなので、みんなの様子を押し出す感じが個人的に刺さりました！！_

社会福祉法人未来こどもランド 令和4年度事業報告 終～